

津山市議会議員

# 政岡あきひろの議会報告

まさおか

津山市の皆様にご報告し、市政に関心を持っていただくために発行しています。この報告紙は政務調査費で発行しています。

## 責任の重さを痛感

平成二七年九月議会が終わりました。まだまだ、手探りのようなところもあります。また、一般市民の感覚とは違う議会の空気に、違和感と戸惑いを覚えながら活動しているという感じですね。

前回の、六月議会における質問や反対討論では、緊張しながらも、財政改革に関し思うところを述べ、一石を投じることができたと思っています。

結果的に、議会活性化特別委員会の場において、議員定数の削減を含めた、議会改革の議論が動き出しました。一方で、私が反対討論に立った、公共施設の上乗せに関する議案は可決されました。取り組むべき課題の多さを、実感しています。本来なら、それらのことをじっくり総括したいところです。

しかしながら、この九月議会における質問のための準備や、支援者の



皆様や耳を傾けるべき方々からの話を聴くことなどで、あわただしく時間が過ぎてしまっていました。まさに、気が付けば九月議会が始まっていたという感じでした。やりたくないこと、或いは、やらなければならぬことを真面目に考え、それに取り組もうとすると、時間はいくらあっても足りないというのが、今の素直な印象です。そのように考えると、本当に、議員としての責任の重さを痛感しています。

## 九月議会における質問の要旨

### ① 津山の向かうべき方向性について

私は、毎回質問に際してはテーマを絞って、執行部や行政当局を質しているように思っています。一方、行財政改革に関することは普遍的なテーマとして、常に質問や提言をしていきたいと考えています。

そのような視座に立ち、今回は、まず第五次総合計画に係る市長の考え方と、今後津山市が目指していくべき方向性について質問しました。例えば、第五次総合計画には「彩あふれる花開く津山の創造市民一人ひとりの想いがかなう夢と希望の花が咲き誇るまち」という基本理念が掲げられています。

まことに美しい言葉です。また、素晴らしい未来像を期待させるものだと思います。しかしながら、いったいそれはどのようにして具現化するのですかというのが、私の質問の主旨です。具体的に、何を持っ

のようなまちづくりをされようとしているのかを問い質しました。

私は、そこが明確でなければならぬと考えています。そのことに對して、経営者である市長が明確に方向性を示さなければ、行政の担当者タイムリーで柔軟な施策実施が図れないと考えるからです。



このことに関しては、「農林業」「ものづくり」「観光」「再生可能エネルギー」を成長戦略の柱と位置付けており、メリハリのある予算配分をしていきたい、と、いう答弁をいただきました。

私は、前回の質問や反対討論の場でも、どこを切っても同じような「金太郎飴」のような予算ではないかと、提言しておりましたので、このことは評価できる内容の答弁であったと思います。一方で、今後の施策実施に際し、きちんとチェックしていく必要があります。

### ② 観光に立脚した産業振興

これは、最初の質問の中でもその方向性として提言したものです。今後、津山市の向かうべき方向性として、歴史・文化・自然など豊富な地域資源を活かした観光施策に力を入れるべきである、という主旨の質問でした。

▲裏面に続く

今回特に、具体的に活用すべきものとして、JRによる旧扇形車庫に関する、施設整備の実施に併せた取り組みの重要性と、スポーツツーリズムによる交流人口増大のための施策実施を提言しました。

JRの旧扇形車庫は、京都の梅小路に次ぐ我が国第二の規模のものであり、転車台を備えています。今JRでは、D51をはじめ、珍しい機関車を集結させ、来年に向けて整備を進めています。

例えば因美線だけでも、美作河合駅には転車台があり、美作滝尾駅は寅さん映画の舞台にもなりました。また、湯郷の鉄道模型館や、美咲町の片上鉄道保存会等との連携も考えられます。

JRによる施設整備が実施されようとしている今こそ、これに津山市が積極的に関わらなくてはいけないという主旨でした。



▲旧津山扇形機関車庫



▲人工芝サッカー・ラグビー場

一方、スポーツツーリズムに関しては、高校サッカー界のブランドでもある作陽高校の野村雅之先生からお話を伺い、資料なども提供していただきました。また、「津山は日本に誇れる特色あるまちになれる」という励ましもいただきました。

スポーツを通じて訪れた人に対し、津山の持つ歴史・文化・自然などの魅力をアピールし、さらなる交流人口の増大を図ろうというのがスポーツツーリズムの考え方です。このことは、既にグリーンツーリズムや医療ツーリズムなどが提言されていますが、その中でも有望な施策であると思います。

これらの施策実施の必要性と、取り組むための体制作り及びその強化策について、質疑を繰り返しました。結果的に、それらのことに積極的に取り組む「観光立市」の実現に向けて、タイムリーで柔軟な施策実施をしていきたいという、答弁をいただきました。

さらには、その中で縦割りではなく各部署が相互に連携できるようにし、メリハリの効いた予算執行ができるようにしたいという、市長からの発言もありました。このことも、今後しっかりと検証していきたいと考えています。

### ③ 行・財政改革について

さらに、行政における執行機関と議会が協働してコスト縮減に努めるという考え方の是非についても、今回は市長から「同感」であるという答弁もいただきました。議会としても、厳しい財政状況を踏まえたうえで、適正で質の高い議員や議会の在り方について、真剣に議論していく必要があるのだと思います。



### 終わりに

全体的に、今回のテーマに関して必要な質疑ができたと思います。また、一定の水準の答弁は、引き出せたように思います。一方で、それを踏まえた今後の施策実施に対する検証が、とても大切になってくるのだと考えています。

ところで、最初にも述べましたように、ある程度テーマを絞らなければ踏み込んだ質疑はできないことを

感じました。今議会では、そのような視点から津山は、歴史・文化・自然など多様な地域資源を活かして、観光立市を目指すべきであるという質疑の的を絞りました。

次回からは、農業問題、教育問題など、私が公約として掲げていたテーマや喫緊の課題等に的を絞り、随時質疑を重ねていくつもりです。それにより、津山市のために有益な施策実施が図られるよう、未来志向で取り組んでいきたいと考えています。

活気ある津山の実現のため、ご意見ご要望をお聞かせ頂ければ幸いです。今後とも、よろしくお願いいたします。

